

## なぜ、民主党大勝の声が聞こえてこないのか？

社団法人アジアフォーラム・ジャパン

専務理事 吉原 欽一

W・ブッシュ大統領の支持率が低迷している。本年初頭におこなわれた各種世論調査では、W・ブッシュの支持率は軒並み30%台前半と低下し、5月には20%台を記録する世論調査まであらわれた。政権二期目の大統領が任期半ばにしてこれほど支持率を急落させた例は、ウォーターゲート事件後のニクソン大統領以来のことである。

支持率低迷の傾向は、連邦議会共和党も同様である。本年6月初旬に実施された世論調査では、「いま、議会選挙がおこなわれたらどの党に投票するか」という問いに対して、共和党は39%の支持しか得られず、51%の支持を得た民主党に大きく引き離されてしまった。連邦議会共和党も、スーパー・ロビイスト、ジャック・エイブラモフをめぐる一連のスキャンダルが、議会共和党最大の実力者と謳われたトム・ディレイ前下院院内総務をまき込んだ一大汚職事件に発展したことで、急激に国民の支持を失ったのである。

現在、「世論」という「風」は、完全に共和党に逆風となっており、民主党には強力な追い風となっている。こうした共和党にたいする逆風が、本年11月7日に行われる連邦議会選挙(中間選挙)まで吹き続けるならば、民主党が1994年以来12年ぶりに、連邦上下両院議会で多数党の座を奪還する可能性は非常に高い。

しかしである。どうも米国のメディアから民主党が圧勝するとの予想が聞こえてこない。それどころかワシントンでは、本年の中間選挙でも共和党が引き続き多数党の座を維持する、とさえ予想する選挙分析の専門家が決して少なくない。なぜ、民主党大勝の声が聞こえてこないのでしょうか？

6月6日、カリフォルニア州第50区で下院議会の補欠選挙が行なわれた。この補欠選挙は、ランディ・カニンガム前共和党下院議員が汚職事件で有罪となり、辞職したことに伴いおこなわれたものであった。この補欠選挙は、たんに中間選挙の前哨戦としてだけではなく、中間選挙の行方そのものを占う恰好の選挙として、全米のメディアの注目を集めていた。まさに民主・共和両党ともに党の命運

をかけて臨んだ選挙であった。結果は、共和党元下院議員のブライアン・ビルブレイ候補が、民主党のフランシス・バズビィ候補を 49%対 45%の僅差で破った（2004年選挙ではカニンガムがバズビィを 58%対 36%の大差で破っている）。

はたしてこの選挙結果は、混迷する中間選挙を占うものとなったといってもよい。もし、共和党の金城湯池である選挙区で共和党候補が敗れるという結果になっていたならば、その差がいかに僅差であったとしても、民主党関係者は中間選挙での勝利を「確信」し得たはずである。さらにメディアは、中間選挙での民主党の勝利が見えたと囁し立てたことであろう。しかし選挙結果は、僅差で共和党の勝利となった。共和党にとって厳しい政治環境のなかで戦われた選挙戦であることを勘案するならば、共和党関係者にとって、僅差での勝利は「予想通り」の結果であったにちがいない。

共和党全国委員会（RNC）委員長のケン・メルマンは、すでに各選挙区候補者に中間選挙に向けて僅差の選挙戦を勝ち抜くべく、グラスルーツ団体や州議会との連係をより一層強化するよう指示を出したという。さらに、ローヴと並び中間選挙の要であり、共和党の戦略家としてワシントンでは夙にその名が知られているグローバー・ノーキストは、5月中旬、自身が主宰するグラスルーツ団体の集会「水曜会」で共和党が中間選挙で勝利するためには、各候補者が全米の各州議会議員との連係をこれまでに例をみないような規模で深めていく必要があると檄を飛ばした。今日、連邦議会選挙は、まさに「ドブ板」選挙となっているのである。ノーキストがいうように、共和党が現在の「万力で押し潰したような僅差」の多数党体制を死守するためには、わが国でいうところの市議員、県議員レベルでの票の積み重ねが不可欠だということである。

民主党は、94年中間選挙で大敗北を喫したが、その後も事前の世論調査では概ね共和党をリードしてきた。にもかかわらず、選挙戦の直前になって失速し、共和党に勝利を奪われてきたのである。しかし、現在の民主党は、グラスルーツ団体をベースにした選挙態勢を展開できるまでに組織が整いつつあるといってもよい。それは02年中間選挙敗北直後から、ヒラリー・クリントン上院議員が声高に主張してきたことでもある。そしてその「新しい民主党」の先頭に立つ人物こそ、民主党下院選挙活動委員会（DCCC）委員長のラーム・エマニュエル下院議員である。彼は共和党の組織選挙に倣い、従来の世論という「風」頼みの選挙に依拠してきた民主党を選挙の「本番」に強い組織政党へと変貌させようとしている。

民主党が、中間選挙に対して従来のような「風」頼みの姿勢で臨むことを改めるならば、現在の民主党有利の世論調査の数字は、そのまま中間選挙の結果に反映されることになるであろう。